

☆復活の主日(3月31日)の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (使徒たちの宣教 10章 34a, 37-43 節)**

その日、ペトロは口を開きこう言った。神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました。「あなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。神は、聖霊と力によってこの方を油注がれた者となさいました。イエスは、方々を巡り歩いて人々を助け、悪魔に苦しめられている人たちをすべていやされたのですが、それは、神が御一緒だったからです。

わたしたちは、イエスがユダヤ人の住む地方、特にエルサレムでなさったことすべての証人です。人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、御一緒に食事をしたわたしたちに対してです。そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方を信じる者はだれでもその名によって罪の赦しを受けられる、と証ししています。」

**第二朗読 (使徒パウロのコロサイの教会への手紙 3章 1-4 節)**

皆さん、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

## 福音朗読（ヨハネによる福音書 20章 1-9節）

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた。「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちには分かりません。」そこで、ペトロとそのもう一人の弟子は、外に出て墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子の方が、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。

身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった。しかし、彼は中には入らなかった。続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来て、見て、信じた。イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。

## 朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

主イエス・キリストのご復活おめでとうございます。桜の花も一気に咲き始めて、自然界も復活をお祝いしているようです。今年の復活の主日は日本社会の事業年度のまさに終わりに当たっていて、意味ありげな気がします。明日からはこの復活の力を信じて前進あるのみですね。主イエスの復活は私たちを立ち止まらせません。弟子たちに何度も現れては力づけの言葉を掛けられ、励ましておられます。

## 第一朗読（使徒たちの宣教 10章 34a, 37-43節）

この日のペトロは力強く輝いて見えます。イエスの受難の夜、イエスを三度も知らないと言って逃げたペトロの姿はどこに行ったのでしょうか。イエスからついてくるように呼ばれたペトロはずっとイエスの側において、イエスの言動をつぶさに体験していました。それでもなお彼はイエスを裏切ったので

す。復活したイエスを見たペトロはそれまで彼が見てきたイエスの言動が本当に信じるに値すると確信したのです。イエスが彼を弟子にした理由はここからのペトロの信仰の証言にあったのです。私たちも洗礼を受けてこの方何度も躓いたでしょう。でもそれは洗礼を受けてイエスに従ったからではありません。イエスはここからの私に期待して、つまり私が信仰に目覚めて、イエスを救い主と告げ知らせるために、イエスは私を呼ばれたのです。私はだめな人間とうなだれるのは止めましょう。ペトロのように何度転んでも立ち上がってイエスを告げ知らせるのです。

## 第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 3章 1-4節）

パウロはコリントの教会にいた不道德な人たちに気をつけるように告げています。そのような人たちは人々の中であってまるでパン種のように発酵して(腐って)雰囲気が悪くするというのです。そして信仰生活を弱くしてしまうからです。どのような生活をしていてもよい人たちと一緒にいることが自分の信仰生活を守ることだとパウロは勧めています。

## 福音朗読（ヨハネによる福音書 20章 1-9節）

イエスが十字架に付けられ死んで墓に葬られたことをヨハネから伝え聞いた弟子たちはペトロを筆頭におどおどしながら週の初めの日の朝を迎えました。その時何人かの婦人たちがイエスの墓に行ったところイエスの遺体が見当たらないと告げに来たのです。イエスが死んで墓に葬られただけでもショックだった弟子たちはそれを聞いてますます落ち込みました。しかしイエスはその後弟子たちに現れて力づけ、助け主である聖霊をも約束なさいました。この一連のイエスの行動は私たちに何を物語っているのでしょうか。それは私たちが何ごとにも落ち込まないように、イエスが私たちにいつも一緒におられるから大丈夫だよと告げておられるのです。何度イエスを裏切っても、何度イエスを知らないと言っても、私たちのイエスはいつも私たちが立ち直ってくるのを待っておられるのです。



復活された私たちのイエスは足立教会の今も見守ってくださる。(カトリック足立教会)

P.S.

復活の主日のミサを皆さまとお祝いできたことを感謝します。足立教会での主任司祭としての最後のミサでした。どこに行っても、ミサを皆さまと捧げることができたのは良い思い出として残るでしょう。新しく来られる神父様は素敵な方ですから、より良い信仰生活に導いてくださることでしょう。Niente ti turbi! (安心なさい。私だ！)

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光